

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103654		
法人名	明日葉 有限会社		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	和歌山県和歌山市小瀬田80-2		
自己評価作成日	平成 22年 4月 16日	評価結果市町村受理日	平成23年7月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103654&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成22年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>常日頃から、健康管理(身体機能低下、栄養バランスの徹底)に注意を払っております。又、生活上の不安解消にも注意を払っており、医療及び福祉サービス関係者とも連携をとっております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは自然豊かで静かな里山的な場所に立地しており、空気も澄み、ゆったりした生活を送れる環境にある。 家族の希望するかかりつけ医が定期的に往診したり、職員が付添い通院し、緊急時にも対応してくれるなどホームとの密接な関係をつくっており、利用者はもとより家族も健康・医療面で安心できる体制が出来ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を、利用案内時の説明文書に記載したり、ホームの見やすい所に明示している。	生命を安心して預けられ、心と心がふれ合う信頼と安心のもと、健康と生活を守る憩いの場となるという趣旨をホームの理念として掲げているが、職員に十分周知され日々の業務の中で活かされているとはいえない。	理念に地域密着型サービスの意義を踏まえた文言を付け加え、できれば職員間の協議で理念を再構築し、互いに共有することにより日々の業務の中に活かされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事務所が中心となり、地域の方々と交流をしている。	近隣の住民とは日常出合ったときに挨拶している。また法人の前庭で行う夏祭りには、屋台や盆踊り、カラオケなどに子供達を含め地域の人々が参加し賑やかに交流している。なお近辺の施設の児童が敬老の日などにプレゼントを持ってきてくれて話し合い利用者が喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は、認知症に対する理解度が低い		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーを選出したので、今後活動していきたいと考えています。	運営推進会議のメンバーを選び顔合わせを行った段階である。	利用者家族、所轄地域包括支援センター、自治会・民生委員等地域の代表、消防署などにメンバーになってもらうよう働きかけて、運営推進会議の早期の開催への取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務所が中心となり、取り組んでいる。	ホームが市の境界に近いところに立地するので、市の担当者とは近隣市等からの利用希望者の受け入れについて質疑や相談を行い、ホームの実情を知ってもらうように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	つなぎ服を着用する場合、御家族様の承諾して頂いてる。	つなぎ服については、利用者が身体を掻いたり、不潔行為が見られたとき、家族に説明して同意書をもらい、その期間だけ着用している。なお玄関は夜間以外は施錠せず、入居者が外に出た場合は見守って付いていくようにしている。居室にはもともと鍵をつけていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	経営者と職員で、常に話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務所が中心となり、取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	経営者と事務所と御家族との連携を保ち十分な理解が得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所が中心となり、意見、不満、苦情等を聞く機会を設けるように努める。	利用者から意見等を聞くのは困難であり、家族には来訪時に出来るだけ会うようにして意見や要望等を聞き運営に活かすようにしているが、外出支援の要望などの場合は家族にも協力をお願いすることがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理念に基づき、朝礼やミーティングの実施している。	朝礼やミーティングのとき職員の意見を聞いたり、管理者が事務室で随時相談を受けており、意見等があれば取り入れ改善策を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の案内が届いた際に、職員に回覧して希望者に参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者と話し合う場を設けるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状できていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の困っていること、不安なことを聞いたり観察して受け止めるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様と事務所で常に話し合いがもたれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様と事務所が常に話し合いが保たれ、事務所が全て対応がなされている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は親しみある言葉使い、優しい雰囲気を保ち返されている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に、電話や手紙を活用したり、面会時に話し合ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に面会をお願いをしたり、御家族様に馴染みの場所に連れて行ってもらったりしている。	利用者の馴染みの人がはるばる尋ねてきてくれたり、家族に馴染みの場所に連れて行ってもらえることがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様にリビングに出てきてもらうようにして、御利用者様同士や局員とお話したりして過ごして頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様、経営者、職員の意見を取り入れて行っている。	利用者一人ひとりの思いや希望等を利用者の普段の言葉や動作等で推測しており、困難な場合は、日頃接している職員の意見を聞いたり家族から利用者の入居前の情報を聞いて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家庭で使用されていた日用品及び家具等を持って頂き、日常生活を送って頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立に向けたアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度ミーティング等が行われている。	職員に意見を聞き、援助目標や援助内容を記載した介護計画を作成し、家族に月1度説明し同意してもらっている。なお介護計画は3か月に1度見直しているが、利用者の心身の状態等に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや申し送りノートの活用で、全職員に伝わる仕組みにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の言葉や動作などで、何を訴えているか職員が把握できるように指導している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特別対応はされていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医に往診をして頂き、緊急時には連携しあって対応して頂いている。	利用者・家族の大部分が希望するホームのかかりつけ医に往診を受けたり通院しており、緊急時にも対応してもらっている。なお歯科、眼科等にも適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の病院の看護師と協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に医師及び看護師と協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一定の医療機関に定めて、医師と相談している。	重度化したときや終末期について、早い段階から家族等と話し合っており、その時が近づいたときは、今後どうするかについて主治医の意見を含め家族等と相談している。なお終末期はホーム内で対応するのではなく、医療機関への入院を前提として方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が把握できるように努めている。 (介護記録や申し送りノートの活用)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を予定している。	火災等を想定した避難訓練を併設施設全体で職員が参加し年2回実施している。今のところ災害に備えて必要な物品の備蓄や、地域の人々の協力が得られるよう声かけも行われていない。	火災等の災害はホームだけの問題ではないので、近隣の人々への協力の依頼や利用者の訓練への参加、備蓄についても検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃より心がけて接するようにしている。	職員は利用者一人ひとりを尊重し呼び方にも注意しており、プライバシーや誇りを傷つける言動は特に見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がさりげなくチェックを行い、支援していくように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が細心の注意、見守りを強化実行を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1～2ヶ月に1回の予定で、理美容師の方が来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は利用者同士、利用者と職員とが会話を楽しみながら、見守りや介助に心がけている。	食事の見守りや介助の必要な利用者も多いが、食事が楽しみなものになるよう味付けや盛り付けに工夫し利用者、職員とも会話を楽しみながら食事をしている。また利用者の中で出来る人は豆の皮むきや食後の下膳等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の決めている水分摂取量を摂るよう、職員が気をつけて摂取するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施(入歯洗浄など)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間おきにトイレ誘導したり、オムツ交換したりする。 又、自立されている方は声かけ誘導。	大部分の利用者には2時間おきにトイレに誘導し、自立した排泄ができるよう支援している。また病気により便意が無くなっている人もおり、便所内でオムツを交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	4日間排便がない場合には、便秘薬を服用(医師の指示のもと)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるかぎり利用者様に合わせた入浴間隔、入浴時間としている。 但し、入浴を促さなければ入浴をしない場合がある為、注意が必要である。	入浴は原則として週2日午後としており、利用者の希望や状況に合わせて入浴日の間隔を開けたり、希望する時間に入浴してもらう等支援している。なお入浴を拒否する人もいるが無理強いせず、入浴したい気持ちが生じたときを待って入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各部屋の清潔、布団の清潔に心がける。 消灯時間を決めているので、消灯時には、各自自室へ1度は誘導する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で服薬管理を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、新聞たたみ、拭き掃除、野菜の皮むき、茶碗等洗い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天時には、玄関先に出てきて日光浴などをする。 又、御家族様と外出をされている。	晴天時には玄関先に出て日光浴をし外気に触れたり、園庭の堀の周りを散歩したりしている。また花見時には、併設のデイサービスや家族と一緒に大池遊園や紀三井寺競技場にドライブすることもある。利用者によっては家族と一緒に墓参りに連れて行ってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は全て事務所でを行い、必要に応じて渡す。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が施設内より自由に電話できるようにしている。 但し、電話や書くことを拒むようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファなどを置いてくつろげるように工夫している。	共用の居間や食堂にはソファを置いてくつろげるようにし、室内の明るさや職員の声のトーンも適当と感じられた。壁面には鯉のぼりやアジサイの花など折り紙で作った色々の工作品を貼り季節感を出すようにしており、利用者にとって親しみやすく居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が部屋を行き来したり、リビングで雑談したり、一緒にテレビを観たりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた日用品や家具等を持参して頂いている。	利用者の居室には、家族が持ってきたソファや衣類箱などの家具を置き、また鉢花や母の日のカーネーションなどを飾り、壁面には折り鶴や好きな動物の絵を貼ったりして、自分の部屋として居心地がよいように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることは、職員が見守りをしながら、自立した生活をして頂くようにする。 (出来ないことは介助する)		